

四季の歌

～季節を詠む 時流を詠む～

小川短歌会

箒目のつきたる庭の陽だまりに二匹のねこのしばし転べる
枯れ紫蘇を焼きしけむりの夜の庭にいまだもこもる匂い執念く
ポストへの道がこんなに遠いとは膝の激痛に思い知らざる
スペインにて迎春しました娘と孫の文の明るく絵葉書は夕焼
直ぐ立ちし杉の若木も時経ればいつこの家の材となるらん

中根良子
幡谷啓子
根本智恵子
永作喜代子
石田はる江

美野里短歌クラブ

ひだまりに枯れ葉枯れ草ながめればありし日の庭よみがえりたり
万博もオリンピックもよるこべぬ災害復興いまだ成せず
庭先の枯木でさわぐカラス達不気味な朝に駆除の報あり
咳やまず近くの医院に行きしときマスクの患者行列をなす
山間のお寺の庭に羅漢さま顔それぞれに旅人癒す

岩崎健次郎
奥村とさ
宇都宮和子
碓谷きえ
白根澤清香

玉里短歌会

みずずかる信濃の峰を覆う雪うま酒かもす水となるらむ
注連縄を張りて命のみなものと庭の井戸にも感謝を捧ぐ
北風の吹く天龍寺歩みゆく和装の外国人シヨールもつけず
庭の梅も咲きはじめたり平成も今年かぎりの三月となりぬ
農道の路肩に果てし小獣よ怨み抱かず妖精となれ

野口初江
石橋吉生
遠藤黎子
高見沢こう
松田通善

寄稿

この道何年つき合ひし友と楽しげに皇帝ダリアの話をする夫
魚沼の田の面をうづむ大雪は海原のようおぼれていたし

平澤ヒロ江
上野和子

みづうみ俳句会

なごり雪会えずに逝きし師の遺影
春浅し湖岸白鳥羽根休め
湯気立つるいつしか雪となる夜更け
子等の打つ梵鐘しきり追儺の夜
成人し春夜の孫の笑み嬉し

長島美奈子
内田とみ
榎本喜代子
茅場久美子
長島久美子

みのり俳句会

にっこりと両手を重ねお年玉
盛りあがる花いちもんめ冬座敷
平成の最後となりし初日の出
きっぱりと空澄みわたるお元日
お世辞にてほめられ見入る初鏡

坂藤清光
佐藤清心
島田草子
白根澤清香
立原千代

櫻の会

道すがら素十の句碑に雪や降る
再た眠る双嶺や川の鈍色に
細雪窓辺音なき入江宿
南崖に白梅の張る西の浦
吟行や神の賜いし雪の降る

矢口富久
岡田禮子
村田忠進
塚田忠進
岡田忠進

くるみ俳句会

早春や梢遙かにちぎれ雲
冬温し老母の笑顔の満ちし居間
核心はふれず仕舞や初日記
無縁仏そつと見守る実万両
廃寺の後は連山冬木立

荒井栗山
信田菊子
島田村
松崎淑子
安彦昭子

玉里俳句会

痒くても届かぬ背中厚着なり
生きがいは子らの成長梅の花
春風の中田起こしの耕運機
納税の申告まとめ床屋へと
からからと音をつれくる空っ風

正木敦子
長谷川光男
鶴岡文男
田山幸子
亀井俊子

小美玉川柳会

映画観て妻の涙にまた感動
惜しい人失う日々を歳想う
ぶきつちよな稀勢に男の美学みる
癒される心に染みる友と酒

忠義治男
義治男
常茶